



東京湾水質一斉調査について

東京湾は、後背地に 2,700 万人の人口を抱え、依然として都市活動の負荷による富栄養化の傾向が見られ、夏季には、赤潮や青潮、貧酸素水塊が発生する状況にあります。しかし、赤潮や青潮の発生メカニズム、貧酸素水塊の分布など東京湾全体にわたる汚濁状況や汚濁メカニズムについては、十分には把握されていない状況にあります。そこで、東京湾再生推進会議モニタリング分科会事務局および八都府市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会事務局は、有識者からなる研究会の「政策助言」を踏まえ、平成 20 年 7 月 2 日に東京湾水質一斉調査を実施すると発表しました。

今回の調査は、国の関係機関や八都府市の各都市が独自に実施していた水質調査を同一日に合わせ、海域及び河川の水質等を一斉に調査するとともに、臨海部に立地する企業や市民団体、小学校等も参加して調査や環境教育を進めるなど、多様な主体が連携、協働して実施する画期的なものです。また、本調査は 7 月 7 日～9 日に開催される洞爺湖サミットを見据えた環境保全のための一斉行動としても位置づけています。

本調査により、東京湾全体の汚濁の状況及び汚濁メカニズムを明らかにし、東京湾を再生するための効果的な施策の推進に資する結果が得られるものと期待されています。

当社では、総量規制項目など長年の実績があり、多検体・短納期分析を行っております。お気軽にお問い合わせください。

調査項目(共通項目)

海域:溶存酸素(DO)量、水温、塩分

河川:化学的酸素要求量(COD)、水温、流量

資料 2008 年 4 月 21日付 環境省報道発表資料

水質分析箇所 平出優香

「微量 PCB 混入廃重電機器の処理に関する専門委員会」第 5 回会合より

環境省は「微量 PCB 混入廃重電機器の処理に関する専門委員会」の第 5 回目の会合を持ち、処理方針について中間的整理案をまとめました。

処理方法として、PCB 自体を無害化する焼却等の方法と、容器・部材を無害化する洗浄等の方法があり、こうした技術を活用して処理を進めるために廃棄物処理法における無害化処理に係る特例制度を活用して、微量 PCB 混入廃重電機器等の処理施設について国が認定を行うことが適当であるとの案が提示されました。

他にも進行中の議題として、短時間で低廉な測定方法の検討については、現在精度面について評価中であり、収集運搬についてはガイドラインを作成していくと報告されました。

また、使用中の電気機器等の PCB 測定は機会を得て行き、適正処理を促す必要性があるとされ、関係府省と連携して検討を進めていく方針です。

当社ではトランス・コンデンサ、土壌、環境水中の PCB の分析を多検体短納期で行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

資料 微量 PCB 混入廃重電機器の処理に関する
専門委員会公聴資料より

クロマト分析箇所 向江菜生

下記の記事をご希望の方は編集室佐藤までご連絡下さい。

1. 19 年度水質汚濁物質排出量総合調査結果
2. 「土壌環境施策に関するあり方懇談会」報告の概要
3. PCB 廃棄物の保管等の届出の全国集計結果 環境省
4. 「公共用水域水質環境基準等に係る告示の一部を改正する告示」の公布 環境省



今すぐ、結果が知りたい！と思った事ありませんか？ 業界初新サービス、しかも無料！

「あなたの分析室Webシステム」 過去データから最新の分析結果、分析の進捗状況まであなたのパソコンからいつでも好きなときにご確認いただけます。まずは、お問合せください。